

なかやまこふん
「中山古墳」

- 指 定 千曲市指定史跡 昭和 63 年 3 月 28 日
- 所 在 地 千曲市大字戸倉 1063 番地 15
- 所 有 者 千曲市
- 概 要 円墳
- 時 代 古墳時代（7 世紀前半）
- 公 開 いつでも可

本古墳は戸倉駅裏の東山、海拔 460m 付近にあり、直径 14m、高さ 3m の円墳です。

石室は羨道^{せんどう}の閉塞部^{へいそくぶ}がほぼ原形を残している、長さ 7.2m、奥壁幅 1.8m、高さ 1.5m です。羨道と玄室^{げんしつ}の区分は明確ではありませんが、山側の側壁が奥壁から 5.2m のあたりで狭まっています。

側壁は大きな塊石を乱積みし、隙間に小石をつめてあり、奥壁は大石を 2 枚重ねてあります。天井石の大石は多少の差はありますがほとんど同一で、石室に出ている部分で長さ 1.6m、幅 1.3m です。床には小石が敷かれています。

副葬品として中山古墳のものか明確ではありませんが、戸倉小学校に保存されている鉄鍬^{てつ}、刀子^{ぞく}、鉄製釧^{とうす}（腕輪^{てつせいくしろ}）などがあります。中山古墳は、古墳時代後期の築造と考えられます。

